

令和4年度 公益財団法人山形市文化振興事業団事業計画

1 山寺芭蕉記念館

(1) 展示事業

①特別展「坂田燦の『奥の細道』版画展（仮称）」（6月3日～7月19日）

坂田燦氏が1990年（平成2）から30年かけて制作した「奥の細道」版画63点を山形市への寄贈を記念して公開する。333年前に芭蕉が見た情景と心情をイメージ化した版画によって、芭蕉の「奥の細道」の旅を追体験すると共に、版画表現の魅力を鑑賞する機会とする。

②特別展「江戸時代の絵画（仮称）」（10月7日～11月23日）

江戸時代の絵画を俳画や文人画、狩野派などの職業画家の作品を含めて紹介する。芭蕉の絵画や、蕉門俳人の絵画も展示し、芭蕉が影響を受けた江戸時代の美意識も探る展示とする。

③企画展「妖怪の文学・美術（仮称）」（7月23日～8月30日）

妖怪は古来より様々な文学作品、美術作品に取り上げられ、松尾芭蕉も紀行文『おくのほそ道』の中で、妖怪「九尾の狐」の殺生石についてふれている。本展では、江戸初期から現代に至るまでの妖怪画や造形作品を展示し、妖怪が日本文化の中でどのように語り継がれ、表現されてきたのか探る。

④正岡子規没後120年記念 企画展「子規からの近代・現代俳句（仮称）」

（11月26日～2月6日）

正岡子規は、江戸俳諧に対し、句作における「写生」という客観的表現に達し、これにより日本派の俳句革新運動が興ることとなる。子規の活動は俳文学に新たな息吹きを与え、今日まで続く近現代俳句の基礎をつくり上げることとなった。本展は、正岡子規や、俳句革新運動の一翼を担った高浜虚子、河東碧梧桐をはじめ、近代俳句勃興期における有名俳人や現代俳句の魅力を紹介する。

⑤企画展「お雛さまと節句の美（仮称）」（2月10日～4月上旬）

江戸時代の雛人形を中心に展示し、雛人形や桃の節句の歴史とその美術を紹介し日本文化の一端を紹介する。

2 普及啓発事業

① 第 65 回全国俳句山寺大会（7 月 10 日）

俳句の普及と振興をはかるため、山寺文化保存会と共催し、名勝山寺の地で、芭蕉が訪れた時期に句会を開催する。

② 第 14 回山寺芭蕉記念館英語俳句大会（7 月）

英語俳句を通して俳句の更なる交流促進、俳句文化の国際交流をはかるとともに、英語教育や文化、観光振興に寄与することを目的とする。

③ 第 53 回芭蕉忌俳句大会（10 月 23 日）

俳句の普及と振興をはかるため、山形県俳人協会と共催し、山寺の地で芭蕉を偲び句会を開催する。

④ 第 29 回山寺芭蕉記念館文化セミナー（7～8 月、3 月頃）

広い視野で日本文化と歴史を見つめる講座を開設し、市民文化の向上をはかると共に新たな視点を提示する。複数回連続講座。

⑤ 山寺芭蕉記念館ボランティアガイド養成講座（仮称）（6～11 月）

「奥の細道」のボランティアガイドを育成する講座を奥の細道マイスターの会・山形大学と連携して開催する。

⑥ 芭蕉を偲んで投句しよう 一般の部・小中学生の部（通年）

俳句の普及をはかるため、山寺芭蕉記念館内に投句箱を設置し、投句選を行う。

⑦ 市民茶会

抹茶または煎茶の呈茶を行ない、茶道作法など、茶道文化の啓蒙普及をはかる。

⑧ 茶房 芭蕉堂（通年、但し市民茶会開催日を除く）

抹茶の呈茶を行ない、茶道文化に親しむ一助とする。

⑨ 山寺感謝の茶会（11 月頃）

山寺地区民に対し、平素から山寺芭蕉記念館の事業に理解と協力を頂いていることへの感謝の意を表して呈茶を行い、茶の湯に親しむ機会とする。

⑩ IT を活用した情報発信

インターネットを媒体として、ホームページや SNS（フェイスブック）を活用して様々な情報を発信する。広報活動や松尾芭蕉・山寺等に関して積極的に情報を発信する。

⑪ 『山寺芭蕉記念館だより（電子版）』の配信〔年1回〕

事業の予告や報告、芭蕉及び「奥の細道」に関する情報の提供を行ない、山寺芭蕉記念館の活動の周知に役立てる。

2 最上義光歴史館

(1) 展示事業

当館の収蔵品を主に、最上家関係資料と山形城関係資料等から選定したものを常設展示して紹介するとともに、下記の4テーマで特設展示を行う。

常設展示については、昨年度の休館中に展示内容の見直しを行ない、月山刀の展示コーナーや山形城発掘コーナーを新設するなどリニューアルを行い、今年度に初披露する。

特設展示

1) 第一部「山形城ゆかりの絵画」～ 居室を彩った大画面 ～(4月-7月)

山形城は延文二年(1357)の最上家初代斯波兼頼による築城から明治二年(1869)の版籍奉還まで約510年の歴史があるが、最上氏以降は城主が頻繁に交代し石高も減少していった。現在、山形城ゆかりの絵画資料はほとんど散逸してしまっただが、本展示では、奇跡的に現存する山形城ゆかりの貴重な絵画資料のうち大画面の障屏画(屏風・板戸・襖)を展示紹介する。

展示品は、県指定有形文化財の屏風「四季花鳥図屏風」狩野玄也作をはじめ、秋元氏在城時代の作とみられる山形城の襖絵「松図」、鳥居氏によって大坂城または伏見城から移築されたとされる杉板戸絵など、山形城の居室を飾った大画面の作品を公開する。

2) 第二部「(仮称) 鐵の美 2022」(7月-10月)

収蔵刀剣の公開を行い、武器であり美術品でもある日本刀の美しさを紹介する。

郷土の刀工をテーマに、新たに寄贈された「江戸三作」として有名な名工・水心子正秀の短刀や寄託資料の上林恒平(山形県指定無形文化財保持者)作の直刀など初公開資料も含めて、郷土が生んだ偉大な刀工の作品を展示公開する。

近年、刀剣女子のあいだで話題の「刀剣乱舞」に水心子正秀が新たに登場して注目されているため、全国から刀剣女子の来館が期待できる。また、山形は著名な刀工を多く輩出しており、綾杉肌が美しい月山刀工や水心子正秀の弟子で師匠をも凌駕する腕前の大慶直胤、幕末の名工で現在も高額で取引される藤原清人等、全国の刀剣愛好家に人気の高い刀工の作品を厳選して公開する特別な展示とする。

3) 第三部「(仮称) 最上家ゆかりの文書展」(10月-1月)

当館所蔵の義光文書を中心に、新たに文化財に指定された新収蔵資料を紹介する。

令和3年度に新たに山形市の文化財に指定された最上家ゆかりの古文書(手紙)を既存資料とあわせて展示紹介し、手紙にみる最上義光の人物像を明らかにしながら、古文書の楽しみ方も紹介する。現存する義光の書状は他の戦国武将と比較すると数が少なく貴重であり、歴史愛好家や郷

土史家のあいだでは大変注目されている。また、義光は能筆家であることから、その流麗な筆跡も鑑賞する機会とし、歴史愛好家だけでなく書道愛好家の来館も期待できる。

この特設展は、近年マスコミに取り上げられて話題となった新発見の最上義光文書の初公開や戦国武将の中でも特に人気の高い独眼竜伊達政宗の貴重な自筆の書状の公開なども行うことで、文書という素材を多角的にピックアップし、幅広い対象に義光をアピールする機会とする。

4) 第四部「(仮称) 出土した陶磁器」(1月-3月)

山形県内の発掘調査で出土した瓦や陶磁器等の埋蔵文化財を展示公開し、発掘調査の現状とその成果を紹介する。最上氏関連遺跡から出土した貴重な陶磁器類を中心に、公開される機会の少ない資料を厳選して展示し、近世山形の諸様相を紹介する。土中に眠っていた貴重な文化財の姿を鑑賞する機会とし、文化財と郷土史に対する理解を深める一助とする。この特設展示では、陶磁器類を通じて、陶磁器の産地の特定による文化の交流と武士達の華やかな生活の一端を紹介し、城郭マニア、考古マニア、歴史マニア、陶磁器愛好家、郷土史家など多くの対象が楽しめ、そして満足できる内容とする。

2. 普及啓発事業

(1) 歴史講座

1) こども講座

小学生を対象に最上義光を学ぶ機会をつくることによって、郷土史に対する関心と理解を深め、愛郷心の育成を図る。

(2) ボランティアに係わる事業

最上義光を啓発することについて、ボランティアという形で歴史館のサポーターとなって、来館者への案内や説明などのサービス提供を担う市民団体「義光会」を支援する。

1) 「義光塾」〔年3回〕

最上義光や郷土の歴史について多角的に学習して、来館者に対して幅広い知識で説明が可能となるようにスキルアップを図る。

2) 「現地研修会」〔年1回〕

最上家や郷土の歴史に関する史跡等を現地研修し、現地に赴くことによってボランティアが郷土史と文化財に対する知識と理解を深め、来館者に対してより質の高い説明が可能となるようにスキルアップを図る。

(3) ICTに係わる企画と情報管理

インターネットを媒体とし、ホームページを活用して様々な情報を発

信するとともに、企画から物販まで幅広く展開する。展示事業とリンクさせて、映像をはじめとする様々な情報をICTに係わる媒体を介して提供し、最上家や郷土の歴史、山形の文化遺産等の啓発も行う。

(4) 『館だより』 〔年1回〕

歴史館の事業報告や、山形の歴史や最上家に関する研究や考察などの最新情報を年刊紙面にて広く提供する。ICT事業にリンクさせ、論文やコラム等は個別にホームページへ記事掲載を行うことで、ホームページからのダウンロードを可能とする。

3. 調査研究事業

(1) 最上家関係資料・史跡調査 〔継続事業〕

県内外に残る最上家等に関わる文書資料や文化財・史跡などの調査研究を進め、写真撮影等による記録保存及び目録作成、複写等の資料整備を行う。

(2) 収蔵資料台帳デジタルアーカイブ化事業

当館所蔵の収蔵資料の台帳整備とデジタルアーカイブに向けた電子化作業を行い、資料の有効保存と情報の発信を目指す。